



Oracle オプション Ver.6.0

「Oracle 監視(表領域の使用容量・使用率)」監視項目の仕様変更について

目次

仕様変更について 4

注意点について 5

本ドキュメントについて

本ドキュメントは Oracle オプションで使用している以下のモジュールについて記述しています。

BomDBMon32.exe

更新日時:2013 年 11 月 12 日、11:55:40

ファイルサイズ:407 KB (417,280 バイト)

ファイルバージョン:6.0.0.21

BomDBMon64.exe

更新日時:2013 年 11 月 12 日、11:57:36

ファイルサイズ:853 KB (873,472 バイト)

ファイルバージョン:6.0.0.21

仕様変更について

これまで、Oracle 監視(表領域の使用容量・使用率)では、「V\$TEMP_SPACE_HEADER」を参照していました。

Oracle Database 11g 以降では、取得した値が 0 バイトで取得されており、監視する対象として適切ではないと判断し、以下のテーブルスペースから値を取得する様変更いたしました。

仕様変更対象の監視項目 : Oracle 監視(表領域の使用容量・使用率)
対象テーブル : TEMP

【変更前取得対象】

ビュー名 : V\$TEMP_SPACE_HEADER
列 : BYTES_FREE

【変更後取得対象】

ビュー名 : DBA_TEMP_FREE_SPACE
列 : FREE_SPACE

※「DBA_TEMP_FREE_SPACE」ビューは Oracle11g から実装されたビュー名です

なお、監視対象が Oracle 9i, 10g であった場合には、変更前の取得対象にて監視が行われます。

注意点について

新しいモジュールへ変更した際に、以下の点に注意していただく必要が有ります

※監視対象が Oracle11g、12c である場合についての注意事項です

・過去の監視ログについて

「Oracle 監視(表領域の使用容量・使用率)」監視項目をすでに作成し、監視を実施していた場合、新しいモジュールへ置き換えたのち、監視を継続すると過去のログと混合いたします。

該当モジュールを適用していただく際には、監視項目を改めて作成していただくか(監視項目のグループ番号が重複しないこと)、監視ログを削除のうえ監視を実施してください。

※なお、アーカイブデータについては、監視項目(監視グループ番号を既存のグループとは別)を別で作成することによりデータが混合してしまうことを回避できます

・しきい値について

情報取得先のビューが変更になる為、しきい値については改めてサイジング後設定をしてください。

Oracle オプション Ver.6.0

「Oracle 監視(表領域の使用容量・使用率)」監視項目の仕様変更について

2014 年 1 月 6 日 初版

著者 セイ・テクノロジーズ株式会社

発行者 セイ・テクノロジーズ株式会社

発行 セイ・テクノロジーズ株式会社

Copyright © 2013 SAY Technologies, Inc. All rights reserved.
